定期作況報告

(第6号 令和6年10月20日現在)

地方独立行政法人北海道立総合研究機構

農業研究本部 上川農業試験場

1. 気象概況

令和6年9月下旬から10月中旬までの平年との比較による気象は次のとおりである(表1)。

9月下旬: 平均気温は0.5度低く、降水量は13.7mm少なく、日照時間は25.4時間多かった。夏日(最高気温25℃以上)は1日であった。

10月上旬: 平均気温は0.7℃高く、降水量は12.6mm少なく、日照時間は2.8時間多かった。

10月中旬: 平均気温は1.1℃高く、降水量は17.6mm多く、日照時間は12.5時間多かった。

表1. 気象表

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	13.4	13.9	-0.5	11.9	11.2	0.7	9.4	8.3	1.1	11.6	11.1	0.5
最高気温(℃)	21.0	20.6	0.4	17.3	16.8	0.5	16.3	14.1	2.2	18.2	17.2	1.0
最低気温(℃)	7.2	8.3	-1.1	6.8	6.4	0.4	1.7	3.2	-1.5	5.2	6.0	-0.8
降水量(mm)	14.0	27.7	-13.7	37.0	49.6	-12.6	54.5	36.9	17.6	105.5	114.2	-8.7
降水日数(日)	1.0	4.0	-3.0	6.0	5.4	0.6	5.0	5.5	-0.5	12.0	14.9	-2.9
日照時間(hrs)	81.1	55.7	25.4	42.3	39.5	2.8	56.1	43.6	12.5	179.5	138.8	40.7

注) 比布アメダス観測値。平年は過去10か年の平均値。

2. 作 況

1) 水稲 良

5月20日現在：平年並

事由： 播種は平年より4日遅い4月19日に行った。出芽の揃いは良好であった。

移植は平年より1日遅い5月20日に行った。移植時の草丈は平年に比べ並から1.1cm短く、第1葉鞘高は並から0.2cm長かった。葉数と茎数はほぼ平年並であった。苗100本当たりの地上部乾物重は、「ななつぼし」では平年より0.34g軽く「ゆめぴりか」では0.12g重かったが、苗の充実度を示す地上部乾物重/草丈はいずれの品種とも平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

6月20日現在：やや不良

事由： 移植後の5月下旬が低温寡照で経過したため、生育は停滞した。その後6月上旬および中旬の気温は平年並から高かったものの、6月20日の草丈および葉数は平年並で、茎数は平年より19～23%少なかった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

7月20日現在：平年並

事由： 6月下旬から7月中旬の気温が平年並からやや高く経過したため、生育は回復した。幼穂形成期は平年より1～2日遅く、止葉期は平年並から1日遅く、出穂期は平年並から1日遅かった。7月20日の草丈は平年並からやや長く、主稈の止葉葉数は平年並、茎数は平年並から8%少なかった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

8月20日現在：やや不良

事由： 7月下旬以降の平均気温は平年並から高く経過し、登熟は順調に進んでいる。成熟期の稈長および穂長は平年並で、穂数は9～10%少なかった。

これらのことから、目下の作況は「やや不良」である。

9月20日現在：平年並

事由： 8月下旬の平均気温は平年より高く、登熟期間の平均気温は高かったため、成熟期は平年並から2日早く、登熟日数は1～2日短かった。稔実歩合は「ななつぼし」で平年より2.4ポイント低く、「ゆめぴりか」で0.9ポイント高かった。一穂粒数は平年より12～14%多く、 m^2 当たり稔実粒数は平年並からやや多かった。登熟歩合は平年より0.7～4.2ポイント高かった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

10月20日現在：良

事由： 精籾重は平年比107～115%であった。屑米歩合は「ななつぼし」で平年より0.1ポイント低く、「ゆめぴりか」で0.9ポイント高かった。精玄米千粒重は両品種とも0.8g重く、また㎡当たり稔実粒数および登熟歩合がいずれも平年並から上回っていたことから、精玄米重は「ななつぼし」が75.0kg/a、「ゆめぴりか」が73.1kg/aで、各々平年比110%、117%と多収であった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

表 2. 10月20日の水稻の生育

品種名		ななつぼし			ゆめびりか			
項目 / 年次		本年	平年	比較	本年	平年	比較	
生育期節	播種期 (月.日)	4.19	4.15	4	4.19	4.15	4	
	移植期 (月.日)	5.20	5.19	1	5.20	5.19	1	
	幼穂形成期 (月.日)	6.24	6.22	2	6.24	6.23	1	
	止葉期 (月.日)	7.09	7.09	0	7.09	7.10	△ 1	
	出穂期 (月.日)	7.20	7.19	1	7.19	7.19	0	
	成熟期 (月.日)	9.04	9.04	0	9.02	9.04	△ 2	
	穂揃日数 (日)	8	8	0	8	8	0	
	登熟日数 (日)	46	47	△ 1	45	47	△ 2	
	生育日数 (日)	138	142	△ 4	136	142	△ 6	
移植時	草丈 (cm)	13.2	14.3	▲ 1.1	14.0	14.2	▲ 0.2	
	葉数 (枚)	4.2	4.1	0.1	4.2	4.2	0.0	
	茎数 (本/m ²)	154	147	7	146	155	▲ 9	
	第1葉鞘高 (cm)	2.4	2.4	0.0	2.6	2.4	0.2	
	地上部乾物重 (g/100本)	4.32	4.66	▲ 0.34	4.78	4.66	0.12	
	地上部乾物重/草丈	0.33	0.33	0.00	0.34	0.33	0.01	
本田生育	葉数 (枚)	6月20日	8.0	8.1	▲ 0.1	8.5	8.4	0.1
		7月20日	10.0	10.1	▲ 0.1	10.8	10.5	0.3
		止葉葉数	10.0	10.1	▲ 0.1	10.8	10.5	0.3
	茎数 (本/m ²)	6月20日	415	538	▲ 123	490	611	▲ 121
		7月20日	719	719	0	770	839	▲ 69
	草丈 (cm)	6月20日	39.8	41.5	▲ 1.7	39.3	38.6	0.7
7月20日		90.6	85.1	5.5	85.7	84.3	1.4	
成熟期	稈長 (cm)	71.9	69.4	2.5	67.4	66.2	1.2	
	穂長 (cm)	17.4	16.8	0.6	17.6	16.9	0.7	
	穂数 (本/m ²)	608	673	▲ 65	713	783	▲ 70	
収量構成要素	一穂粒数 (粒)	57.7	50.8	6.9	48.0	43.0	5.0	
	m ² 当たり粒数 (×100)	351	340	11	342	336	6	
	稔実歩合 (%)	93.3	95.7	▲ 2.4	93.9	93.0	0.9	
	m ² 当たり稔実粒数 (×100)	327	325	2	321	312	9	
	同上比 (%)	101	100	1	104	100	4	
	登熟歩合 (%)	89.7	89.0	0.7	88.1	83.9	4.2	
	粒摺歩合 (%)	82.3	81.1	1.2	79.0	78.7	0.3	
	屑米歩合 (%)	1.7	1.8	▲ 0.1	4.5	3.6	0.9	
精玄米千粒重 (g)	23.2	22.4	0.8	23.5	22.7	0.8		
収量	藁重 (kg/a)	75.0	65.3	9.7	69.0	62.6	6.4	
	精粒重 (kg/a)	89.4	83.3	6.1	91.0	79.3	11.7	
	精玄米重 (kg/a)	75.0	68.1	6.9	73.1	62.7	10.4	
	屑米重 (kg/a)	1.3	1.2	0.1	3.4	2.4	1.0	
	収量平年比 (%)	110	100	10	117	100	17	
	検査等級 (等)		1下	—		2中	—	

注1) 平年値は前7か年中、令和元年（最凶年）、平成29年（最豊年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

3) 育苗耕種概要 育苗様式：成苗ポット苗

施肥：成苗培土Hを約1.43 (kg/箱) 充填、
成分量 N 0.5、P₂O₅ 1.0、K₂O 0.8、MgO 0.2 (g/箱)、
置床 N 25.0、P₂O₅ 0.0、K₂O 5.0 (g/m²)

4) 本田耕種概要 栽植密度：25.3株/m² (33.0cm×12.0cm)、3本植

施肥量：N 8.0、P₂O₅ 9.7、K₂O 6.9 (kg/10a)、堆肥 0 (kg/10a)

5) 精玄米千粒重および精玄米重：網目1.90mm以上、水分15%換算。

2) 秋まき小麦 (R6年播種) 良

10月20日現在：良

事由： 播種は平年より4日早い9月13日に行った。その後、気温が平年並に推移し、適度な降雨もあったことから出芽期は平年より6日早かった。出芽期以降も気温が平年並からやや高く推移したことから、葉数は平年より多く、草丈および茎数は平年をかなり上回った。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

表3. 10月20日の秋まき小麦の生育

品 種 名		きたほなみ		
項 目 / 年 次		本 年	平 年	比 較
播種期 (月.日)		9.13	9.17	△ 4
出芽期 (月.日)		9.21	9.27	△ 6
出穂期 (月.日)			6.03	
成熟期 (月.日)			7.15	
越冬茎歩合 (%)			118.2	
雪腐病発病度			5.6	
葉数(枚)	令 5年10月20日	5.1	4.1	1.0
草丈 (cm)	令 5年10月20日	24.8	16.7	8.1
	令 6年 5月20日		46.7	
	令 6年 6月20日		90.9	
茎数 (本/m ²)	令 5年10月20日	1198	556	642
	令 6年 5月20日		1055	
	令 6年 6月20日		615	
成熟期	稈長 (cm)		81	
	穂長 (cm)		8.6	
	穂数 (本/m ²)		510	
子実重 (kg/10a)			571	
同上平年比 (%)			100	
容積重 (g/L)			841	
千粒重 (g)			41.7	
蛋白質含有率 (%)			9.1	
検査等級 (等)				—

注1) 平年値は前7か年中、収穫年における令和5年(最豊年)、平成30年(最凶年)を除く5か年の平均値。検査等級は令和6年が未確定のため空欄。

2) △は平年より“早”を示す。

3) 大豆 良

5月20日現在：

事由： 播種は、平年より1日遅い5月20日に行った。

6月20日現在：平年並

事由： 播種後の5月下旬は平年より低い気温で推移したため、出芽期は平年より5日遅い6月4日であった。出芽後、6月中旬は高い気温で推移し、主茎長は平年よりやや長く、主茎節数は平年並である。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由： 開花期は平年より1日早かった。6月下旬以降、気温が平年並から高く推移したため、主茎長はやや長く、主茎節数と分枝数はやや多い。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：やや良

事由： 7月下旬以降の気温が平年並からやや高く推移したことにより生育は順調に進み、着莢数は平年より多かった。なお、7月23日から24日にかけての豪雨により試験区の一部が倒伏した。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

9月20日現在：良

事由： 9月上旬以降、降水量は少なく推移したため、成熟期は平年より2日早かった。主茎長は平年よりやや高く、分枝数と着莢数は平年より多い。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

10月20日現在：良

事由： 前報のとおり成熟期の莢数が多く、百粒重は平年よりやや軽かったが、子実重は平年比119%と多収であった。屑粒率は平年よりやや高かった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

表4. 10月20日の大豆の生育

品 種 名		ユキホマレ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.20	5.19	1
出芽期 (月.日)		6.04	5.30	5
開花期 (月.日)		7.11	7.12	△ 1
成熟期 (月.日)		9.15	9.17	△ 2
主茎長 (cm)	6月20日	15.5	13.5	2.0
	7月20日	57.9	54.9	3.0
	8月20日	60.1	59.0	1.1
	9月20日	60.2	58.3	1.9
	成熟期	60.2	58.3	1.9
主茎節数 (節)	6月20日	4.1	3.8	0.3
	7月20日	10.1	9.5	0.6
	8月20日	10.0	10.2	▲ 0.2
	9月20日	10.1	10.1	0.0
	成熟期	10.1	10.1	0.0
分枝数 (本/株)	7月20日	7.4	5.7	1.7
	8月20日	7.3	6.4	0.9
	9月20日	7.3	6.1	1.2
	成熟期	7.3	6.1	1.2
着莢数 (個/株)	8月20日	102	81	21
	9月20日	106	75	31
	成熟期	106	75	31
子実重 (kg/10a)		479	404	75
同上平年比 (%)		119	100	19
百粒重 (g)		32.0	33.9	▲ 1.9
屑粒率 (%)		3.1	1.6	1.5
検査等級 (等)			2中	

注1) 平年値は前7か年中、令和5年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”、▲は平年より“減”を示す。

4) 小豆 やや良

6月20日現在：平年並

事由： 播種は、平年より1日早い5月23日に行った。主茎長、本葉数ともほぼ平年並であった。

これらのことから、目下の作況は「平年並」である。

7月20日現在：やや良

事由： 前報以降も生育が順調に進み、分枝数は平年並であったが、主茎長は平年よりやや長く、本葉数は平年より多かった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

8月20日現在：良

事由： 開花期は平年より1日早かった。7月下旬以降気温は平年並から高く推移し、7月下旬のまとまった降雨で土壌水分も十分であったことから地上部生育が旺盛となり、主茎長は平年よりかなり長く、本葉数および分枝数は平年よりやや多く、莢数は多かった。

これらのことから、目下の作況は「良」である。

9月20日現在：やや良

事由： 成熟期は平年より6日早かった。主茎長は平年よりかなり長く、主茎節数、分枝数および莢数はやや多かった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

10月20日現在：やや良

事由： 前報のとおり成熟期の莢数がやや多く、百粒重は平年よりやや軽かったが、子実重は平年比106%であった。屑粒率は平年より低かった。

これらのことから、目下の作況は「やや良」である。

表 5. 10月20日の小豆の生育

品 種 名		エリモシヨウズ		
項 目 / 年 次		本年	平年	比較
播種期 (月.日)		5.23	5.24	△ 1
出芽期 (月.日)		6.09	6.08	1
開花期 (月.日)		7.22	7.23	△ 1
成熟期 (月.日)		9.04	9.10	△ 6
主茎長 (cm)	6月20日	5.5	5.0	0.5
	7月20日	30.4	26.3	4.1
	8月20日	83.1	60.5	22.6
	成熟期	87	67	20
本葉数 (枚)	6月20日	1.4	0.9	0.5
	7月20日	9.4	8.0	1.4
	8月20日	13.5	12.6	0.9
主茎節数 (節)	成熟期	14.1	13.5	0.6
分枝数 (本/株)	7月20日	5.8	5.7	0.1
	8月20日	6.8	6.0	0.8
	成熟期	6.6	6.0	0.6
着莢数 (個/株)	8月20日	84	60	24
	成熟期	68	54	14
子実重 (kg/10a)		357	336	21
同上平年比 (%)		106	100	6
百粒重 (g)		12.9	13.7	▲ 0.8
屑粒率 (%)		1.8	4.5	▲ 2.7
検査等級 (等)			2中	-

注1) 平年値は前7か年中、平成29年（最豊年）、令和3年（最凶年）を除く5か年の平均値。

2) △は平年より“早”を示す。